

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100228		
法人名	有限会社なんくる		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームたけとんぼ		
所在地	那覇市国場911-2		
自己評価作成日	平成29年8月14日	評価結果市町村受理日	平成29年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=4790100228-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成29年 9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設ボランティアの協力を受けながら個々の能力に応じた活動に努めたりこれまでの生活歴を考量して引き続き支援できるように努めている。毎月職員間で介助方法を検討したりして利用者が楽しめる施設になるように努めている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設8年が経過した当事業所は、日常的に地域へ出かけると共に地域のボランティア等を受け入れ交流する他、地域の有志と連携し「国場げんき祭り」を開催し利用者に参加している。身体拘束をしないケアの方針の下、マニュアルを整備し会議等で利用者の行動の意味や背景等を話し合い、職員間の声かけの強化や利用者の日中活動の充実を図り、センサー等には頼らず、利用者の安全な暮らしや身体拘束をしないケアに取り組んでいる。介護計画は、利用者や家族の思いの把握に努め、自宅での習慣の継続や利用者の力を発揮できる役割等を位置づけて作成し、担当職員と計画担当者を中心に職員全体でカンファレンスで検討し、現状に即した計画に繋げている。食事は、三食事業所で作り、利用者の希望と月1回、法人内の調理師による献立を取り入れ、食事を楽しめるよう支援している。行政や地域内のグループホーム事業所と連携し、情報交換しながら事業所運営に取り組み、今年度は共用型通所介護も開設している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念作成を検討中	理念は、開設時から法人の経営理念と経営方針を掲げ職員フロアに掲示して共有している。昨年の自己評価で、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を作成することを目標に掲げたが、この一年、職員全体で協議する機会が持てず、保留のままとなっている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念について、職員全体で協議し作成されることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	2~3回/週近隣住民のボランティア活動を受け入れている	事業所は、利用者と散歩時に通りのごみ拾いを継続して行う他、昨年からは、地域の企業有志と「国場げんき祭り」を企画し、利用者と参加している。事業所行事には地域の保育園児等が参加し、日常的に近隣住民による傾聴ボランティア等の訪問を受け入れ、利用者で交流している。毎年、看護学生の実習にも協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣企業と協力して地域の夏祭りを開催し事業所のアピールをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見等を参考にしている	会議は、行政や有識者、利用者や家族、地域代表者が参加し、2カ月毎に開催している。会議では、行政から「ヒヤリハットと事故を区別するように」と意見があり、新たに事故報告書の様式を整備し対応している。外部評価結果は、委員に口頭で報告しているが、会議録の公表はなく対応が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して事業所の取組等の伝えられている	行政とは2カ月毎に開催の運営推進会議や市のグループホーム連絡会で情報交換している。また毎月、待機者情報の交換や生活保護等の相談で行政窓口を訪問する他、電話でも相談している。行政からは、各種研修案内があり、包括からは、ポイント制度のボランティアの紹介がある等、協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定義を掲示したり利用者への介護方法を話し合っている	身体拘束をしない方針の下、職員フロアには「11の禁止項目」を掲示し周知すると共にミーティングでも確認している。転倒リスクのある利用者の居室は家具の配置を工夫し、不穩や帰宅願望のある利用者には編み物等の活動や傾聴ボランティアの関わりを支援する他、散歩やドライブに出かける等対応し、拘束をしないケアを実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体観察に注意を払い防止に努めている	運営規定に「虐待防止のための措置」が明示され、管理者は、年1回、虐待防止や身体拘束廃止マニュアルを職員と読み合せている。利用者への言葉遣いが気になる職員には、管理者や主任がその場で注意し、ミーティングでも対応の在り方を話し合っている。管理者は、休憩時間の確保や月1回、親睦の場を設け、職員のストレス軽減に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを掲示したり契約時に説明を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に疑問等を尋ね十分な説明をしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の面会時等にコミュニケーションを取り意見交換をしている	利用者の声は、日常会話の中で外出の要望や食べたいもの等を直接聞き、ドライブや外食支援に繋げている。家族からは、担当者会議や面会時等に聞いている。家族から「入居しても自宅と変わらず、喫煙や晩酌をさせて欲しい」との声を主治医に確認し、喫煙場所等の環境整備を行い対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月管理者会議や介護ミーティングを行っている	職員意見は、毎月のミーティングや業務中でも随時、聞いている。職員から「外出希望者が増え、車いすの利用者にも対応可能な車が必要」や「老朽化したテラスを多目的に活用できるサンルームへ」の声を法人管理者会議に送り、車いす対応車両の配置が実現し改修も検討されている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や労働条件の整備に努めている	毎月1日を定例とするミーティングに休日の職員が参加する場合は手当をつけ、勤続年数に応じた昇給や有資格者手当を支給している。勤務体制を工夫し、リフレッシュ休暇等、有休取得に沿えるよう努めるとともに3年以上勤務の職員は、実践者研修への参加を支援している。人事考課を導入し個別面談を予定している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部研修に参加できるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いろいろな連絡会に参加して情報交換に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話に傾聴したり、要望を受け止め安心できる関係に努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時に家族の意見や要望を受け止め安心できる関係に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族と意見交換に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の訴えを傾聴して信頼関係に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の体調変化をその都度報告し協力し合える関係に努めている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の写真や今まで使ってきたものを使い関係継続に努めている	利用者の馴染みの人や場は、生活歴等、本人や家族から聞いて把握している。利用者が大切に保管していた人事命令書を頼りに働いていた幼稚園訪問や親族の営む惣菜店に出かける等支援し、旧盆は、自宅に外出し親族と交流する利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席配置を変えたりしてみんなが楽しめるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会や電話連絡をして相談に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から情報収集を行い意向に合うように努めている	利用者の多くが会話ができ、利用者をより深く理解するよう職員の担当制を設け、日々のケアを通して利用者の思いを把握するよう努めている。発語等、困難な場合は、選択肢を用意し、表情や反応から推測したり家族にも聞いたりしている。職歴や行動観察から、お米とぎや食後の片付け等の役割へ繋げ支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から情報収集を行い意向に合うように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを活用し現状の把握に努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成している	毎月、1名の利用者について職員カンファレンスを開催し、サービス担当者会議には、利用者や家族、担当職員や主治医等が参加して介護計画を作成している。個別の日課計画書に沿って介護記録を整備すると共に3カ月毎に担当職員と計画担当でモニタリングを実施し計画を見直し、状態変化時も随時に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りをを使い情報を共有して介護計画書の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや八百屋に買い物に出かけている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	バイタルチェック表や日常生活状況を説明している	利用者は、入居前からのかかりつけ医や希望のかかりつけ医を受診し、4人が訪問診療を受けている。訪問診療以外は、認知症専門医等、他科受診も含め家族対応としている。受診時は家族に書面及び口頭で情報提供を行ない、受診結果は家族から口頭や医療機関からの返書で受けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の変化をその都度看護師に伝え支援に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者と情報交換し退院に向けた支援に努めている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から関係者で話し合いを行い今後の対応について情報を共有し支援に努めている	「入居者の急変時や重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、「医療行為が生じた場合は対応が困難」との考えを入居時に家族に説明し同意を得ている。現在、事業所での終末期ケアを希望の利用者に、法人代表との相談やケアカンファレンスで緊急時の対応等、職員間で情報共有し、状態変化に応じて主治医と連携する事を家族へ説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	努めているが出来てない		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の訓練を行っている	消防署に届け出し、年2回昼間・夜間を想定した消防避難訓練を実施し、報告書も作成しているが、訓練には地域住民の参加協力が得られていない。一斉通報装置等の防災設備は完備されているが、災害別の対応マニュアルや食料・生活用品等の備蓄は整備されていない。	訓練への地域住民の参加に向けた協力体制作りや食料等の備蓄及び、あらゆる災害への対応マニュアルの整備が望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシーを尊重し対応している	事業所は、利用者の名前の表示や写真の掲示は了解を得て使用し、居室やトイレのドアは閉める等プライバシーの配慮に努めている。利用者への言葉遣いには特に気を付けるようにし、日々のケアの中で不適切な対応や言葉遣いがある場合は、職員同士や管理者等が注意する等、職員に人格の尊重を意識づけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る範囲内で対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の能力に応じて活動している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回散髪支援をしている		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやもやしのひげ取りなどを職員と一緒にやっている	食事は、事業所で3食調理し、季節の食材や行事に合わせた献立や利用者の要望も取り入れパンの日を増やす等対応している。利用者は、食材の買い物や下ごしらえ、配膳下膳に参加している。月1回は、事業所の献立にはない法人内の調理師による天井やビーフンチャー等を提供し、食事を楽しむ工夫をし、職員も一緒に同じ物を食べている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を状況に応じて工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状況に応じて支援している		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して職員間で共有している	排泄チェック表の活用と利用者の様子を見ながら声かけする利用者も含め日中は、ほぼ全利用者がトイレでの排泄ができており、綿パンツの使用等、入居前からの排泄状況が維持できている。夜間は利用者の状況によりポータブルトイレの利用やパット交換等を対応する他はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを考慮して下剤等の使用を看護師と相談している		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状態に合わせて支援している	入浴は、週3回の午前中で個浴を基本としているが、利用者の状況や希望に応じて時間や回数の調整をしている。皮膚トラブルがある利用者は、家族が用意した専用の石鹸を使用している。入浴拒否がある場合は、髭そりの勧めや排泄後にトイレから浴室に繋がるドアへ誘導し支援する等工夫している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	利用者の体調に合わせて支援している		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬の変更等があれば申し送りに 記入して情報共有を行っている	服薬は、提携する薬局から利用 者毎の処方薬を一週間分ずつケ ースに仕分けし配達されている。 職員は一週間分を利用者の手の 届かない場所に置き、食前・食 後に名前を確認してから与薬し ている。残りの処方薬は、別室 キャビネットに保管している。 薬サマリーは個別ファイルと利 用者全員分をまとめた薬ファイル に綴り、変更があった場合は申 し送りに記入し情報共有してい る。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	利用者の好みに合わせて支援 している		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かける ように支援している	家族やボランティアと協力して 外出支援に努めている	利用者は、日常的に職員と共に 事業所周辺の散歩や買い物に 出かけている。週3回程度、市 内をドライブする他、ボランティ アや家族の協力を得ながら遠足 や観光施設見学等にも出かけて いる。個別には、担当職員を中 心に誕生日の夕食や月1回程 度、他施設に入居している家族 の面会を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している	家族からお金をもらい利用者の 嗜好品を買いに行くように支 援している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やフロアに写真や作品を展示している	事業所は、天井が高く天窓からの採光も程よく広々とし清潔感がある。次亜塩素酸水の加湿器を4ヶ所に設置すると共に温・湿度を設置し感染症予防に努めている。壁には行事や活動中の写真の他、季節に合わせた利用者の作品を掲示している。テレビの前には、利用者が寛いで過ごせるようソファを配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを設置して自由に過ごせるように努めている		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを使用して心地よく過ごせるように努めている	全室にダンス・ベッド・エアコンが備え付けられている。利用者は、仏壇や入居前から使用しているダンスや椅子等を持ち込み、一人ひとりの動線に合わせて家具等を配置している。壁には本人や家族、趣味の写真やカレンダー、本人の作品等を掲示し、利用者が居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置して安全に自立した生活ができるように努めている		

目標達成計画

作成日: 平成29年10月18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所独自の理念が作成されていない。	事業所独自の理念を作成する。	引き続き職員と話し合いをしていき事業所にあった独自の理念を作成する。	7ヶ月
2	15	消防避難訓練に地域住民の参加と飲食料や生活用品の備蓄がない	消防避難訓練に近隣住民が参加しやすいように工夫をし約3日分の備蓄を整備する	運営推進会議等を活用したり避難訓練のチラシを配布する又備蓄はスーパーでラーメンやレトルト食品、飲料水を購入する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。